

佐用町立平福郷土館ごあんない

建物の概要

本館は平福出身の中井清蔵氏が郷土発展のため、多額の寄付をされたことを機縁として建設されたものです。

外観は、江戸時代に建てられた南新町の瓜生原家の建築様式を再現しています。特徴は、大屋根の煙出し、切妻の越し屋根、ヒサシの持ち送り、軒先で日除けの役目をする目隠し、くぐり戸のついた吊り上げ大戸、雨戸を上下に開くと天井と縁になるブッチョウ造り、葬式のときの出棺にだけ使用する出口など。

展示物の内容

1 階

主として宿場町平福を象徴する商家などの道具や民具類

○店の間

昔の商家の「店の間」。結界のある帳場机、大福帳、帳だんす、銭箱、大長火鉢、明かり用具、銭柄など。

○鋳物師の文物

享保年間に創業した鋳物師屋瓜生原家の古文書、鋳物製品、工場
の模型（たたら）など。

○商い用具

薬屋、呉服屋、髪結い、居酒屋、米屋などの用具

○その他

利神城ゆかりのつつじ割の大太鼓。維新勤王廟の制札
滑車（あみだ）：ロープの端に25貫（約94kg）の石がついています。
売薬看板：特色のあるものを展示しています。

2 階

○利神城に関するもの

利神城跡の模型、出土した鯉瓦、鬼瓦、かめの破片等

○その他

古文書類など

[展示品は入替えたり、企画展示等、内容を変更することがあります]



JR 姫新線 佐用駅から6Km
智頭急行 平福駅から0.7Km
中国自動車道 佐用ICから3Km

当館までのアクセス

- 開館日：土・日曜日・祝祭日（年末・年始は休館日）
- 開館時間：午前9時～午後4時
- 入館料：大人200円・子ども100円

当館利用案内

- 展示資料にはお手を触れないでください。
- 展示資料の撮影はご遠慮願います。
- 建物内での喫煙及び火気の使用は禁止です。
- 建物内での飲食はご遠慮願います。
- 建物内へのペットの連れ込みはご遠慮願います。
- 他の見学者に迷惑のかからないようにご覧下さい。
- その他、管理者の指示に従ってください。

おねがい

お問い合わせ

平福郷土館
679-5331 兵庫県佐用町平福594 Tel.0790-83-2635
佐用町教育委員会
679-5301 兵庫県佐用町佐用2600-2 Tel.0790-82-2424

佐用町立

平福郷土館



星
花の宿
の宿
平福

兵庫県佐用町

平福の概要

◎利神城の成立と城下町から宿場町への発展

利神城のはじまりは利神山南麓の殿町に館が構えられた14世紀頃のことと考えられ、上月合戦の始まった天正5年(1577)には別所中務が居城していました。上月合戦後の天正7年、赤穂・佐用の2郡は宇喜多氏の領地となり、佐用郡はこの利神城が拠点になっていたと思われます。

時代は近世へと移り、慶長5年(1600)播磨国は池田輝政の領となり、利神城はその支城として池田出羽守由之が入ります。このとき利神城は大改修を受け、西麓に常御殿を築城、城下町を形成しました。

その後元和元年(1615)には池田輝興が入り平福藩が成立しますが、のち山崎藩領となり寛永17年(1640)には旗本松井松平氏の領所となって陣屋(代官所)が置かれました。そして因幡街道沿いにあった城下は必然的に宿場町へと姿をかえていくことになります。

この平福宿場町は里謡に「大原夜出て釜坂越えて華の平福朝駆けに」といわれるほどの発展をみせ、江戸時代後期には宿屋12軒を含む280軒もの町場を形成していました。



空から見た平福



平福陣屋門



川端風景



平福周辺図



利神城跡



『宮本武蔵』初決闘の場

平福のみどころ

◎利神城跡

平福の東側山頂に威容を見せる石垣群は標高373mの利神山に築かれ、総延長450mにおよぶ石垣を創らせた近世初頭の山城の跡です。

池田由之が築いた三層の天守と城郭群は別名「雲突城」とも呼ばれ、あまりの豪壮さに姫路城主池田輝政が破却を命じたという伝説も生まれました。

短期間で廃城となったため、数少ない近世初期の山城の様子を伝える貴重な文化遺産となっています。

◎御殿屋敷跡

池田氏は利神山西麓に常御殿と呼ばれる館を構え、周囲に侍屋敷を配して城下町をつくりました。佐用川を外堀とし、内堀を配した立派な石垣は、現在もその一部を見ることができ、御殿屋敷、花畑などの地名が残っています。

◎町並みと川端風景

城下町として成立した平福は因幡街道の宿場町として発展し、いまでも町並みに往時を偲ぶことができます。現在の建物は主に明治期からのものですが、作州系、播磨系入り交じった様式で立てられています。特に作州系では「なまこ壁」「袖うだち」が、播磨系では「虫籠窓」があります。

また、町屋の川端風景が特に有名です。川に面した土蔵や川座敷、川門は佐用川に映え、独特の雰囲気を感じさせています。

◎上下水道

町屋の形成に伴って水路をつくり、上水と下水を巧妙に交差させるなどして共同使用の水道としています。当時の技術力の高さが偲ばれ、いまでも大切に保存活用されています。

◎平福陣屋門

平福は寛永17年から旗本領となり、代官支配となりました。町並みの西側山麓に陣屋が置かれるようになりましたが、この門は現地に唯一残る遺構として貴重です。

◎『宮本武蔵』初決闘の場

ここは宮本武蔵が13歳のとき、新当流の達人・有馬喜兵衛にこの金倉橋のもとで初勝負をいどみ、一刀のもとに倒した場所と伝えられています。